

宮島地区パークボランティア公募観察会「干潟のいきもの観察会」

実施日時：平成 25 年 6 月 8 日（土） 11:00～15:30

場 所：広島県廿日市市宮島町（大元干潟）

講 師：宮島地区パークボランティア会員

参 加 者：32 名（募集定員 50 名）

天 候：くもり

内 容：宮島の巖島神社・大鳥居周辺の干潟にて干潟の生き物を観察した。水を嫌うアラレタマキビを水に入れたり、マテガイの巣穴に塩を入れる実験などを通して、生き物たちの生態について学んだ。

【実施風景】



開会式

環境省の自然保護官、宮島パークボランティアの会会長より挨拶。当会では宮島の植物・歴史の観察会が中心でしたが、この度は初めて干潟観察会を企画しました。



事前学習

まずはどんな生き物がいるのか 30分ほど事前学習を行いました。

案の2：別添 実施概要



昼食後いざ干潟へ。

干潮3時間前ですが、大潮とあって潮がかなり引いています。



どんな生き物がいるかな？

まずは生き物を見つけてみよう！



どちらの巣穴？

1つの巣穴にテッポウエビ（左）とハゼ（右）がいました。「共生」といってエビの巣穴にハゼが居候して敵の侵入を知らせます。



マメコブシ

拳のような形のマメコブシ。
動きが鈍く容易に捕まえることができます。鳥に食べられそうですが、この丸い甲羅がとても堅くて食べられる心配がありません。



チチブの卵

河口域の石をめくるとチチブの卵がぎっしりと付いていました。人が近づいてもチチブのお父さんは卵を守るため離れません。



イワシを使った干潟の実験

イワシの死がい置いて数十分後、どうなっているか見に来てみました。



3匹のイワシに群がるアラムシロ(貝)とカニたち

雑食性のアラムシロやカニたちは死がいの臭いをかぎつけ食べ尽くす干潟の掃除屋です。



マテガイ採り

昔ながらの方法でマテガイ採りにも挑戦！塩を巣穴に入れて待ちます。「出てくるかな～」

案の2：別添 実施概要



マテガイ採り成功！

出てきたマテガイをゆっくり引き抜くと…「採れた～！」



(甲殻類) ニホンスナモグリ、テッポウエビ、コメツキガニ、ハクセンシオマネキ、マメコブシ、ヒライソガニ (魚類) ハゼ類、チチブ (貝類) ソトオリガイ、アラムシロ、アラレタマキビ、ホソウミニナ、マテガイなどの生き物が観察できました。最後は干潟に返しました。



閉会式

講師を務めた宮島地区パークボランティア会員呼坂さんより挨拶。是非また宮島の干潟に遊びにきてくださいね。

みなさん、お疲れさまでした！